

## 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

### 地域密着型サービスの自己評価項目構成

項目	項目数
理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
サービスの成果に関する項目	13
<b>合計</b>	<b>100</b>

### 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。

また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

### 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名

グループホーム はまんだ

(ユニット名)

所在地

(県・市町村名) 鹿児島県西之表市西之表6602-1

記入者名

(管理者) 羽生 千代子

記入日

平成 21年 9月 30日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>1. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	今後も地域の方々を中心に周知を、もっともっと図って行きたいと考えています。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		今後なおいっそう理念の共有をはかり、日々のケアに取り組んでいきます。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	○	今後も継続して取り組んで行きたいと考えています。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		訪問者はまだまだ少ないようですので、もっともっと関係を深めて行きたいと思います。GHへの理解は徐々に深まって来ている様に思います。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		地域の皆様にグループホームの存在を知っていただき、もっともっと多くの機会が出来るよう、働きかけて行きたいと思います。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	スタッフがキャラバンメイトとして「認知症サポーター養成講座」にて活動をさせていただいています。また老人クラブ、民生委員の方々の見学の受け入れ、小学生の総合学習の受け入れなども行っています。		今以上に出来ることはないか話し合いながら、グループホームや認知証のことを少しでも地域の皆様に理解していただく為にも、機会があったら出かけたり、受け入れたりして取り組んでいきたいと考えています。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	グループホームミーティングにて意義を確認し話し合い、改善に取り組んでいます。		外部評価の意義、目的を共有し、評価結果についてスタッフ全員で確認し具体的な改善に生かしていきたいと考えています。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回運営推進会議を実施し、入居者の状況の変化、生活の状況、活動報告等を行い、それに対して意見を出していただき、サービスの質の向上に努めています。	○	今後も委員の皆様と連携を図り、サービスの質の向上を図ると共に、グループホームが地域に溶け込んでいけるよう取り組んでいきたいと思っています。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	役所の担当者、包括支援センター職員、居宅支援事業所等との交流を図り質の向上に取り組んでおります。昨年度より西之表市の方で地域密着型サービスのモデル事業に取り組んでおりその一員としてスタッフが参加しており色々な交流ができています。	○	今後はもっと連携を図りサービスの質の向上に努めていきたいと考えています。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会及びそれに関する資料により制度について、認識はしています。現在対象者は居られません。	○	今後対象者があった場合は随時対応していきたいと考えていますが、詳しい事に関してはまだまだ不十分な事が多いので、研修会等への参加の機会を作っていきたいと思っています。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会等に参加しスタッフ全員学ぶ機会を作り、取り組んでいます。又法人内の事故・身体拘束防止委員会にて情報交換を行い防止に努めています。		今後も研修会等に参加し、理解を深め取り組んでいきたいと考えています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に時間をかけ丁寧に説明し、内容を理解し納得していただくようにしています。	○	契約時の対応はもっとも大切な事ですので、今後も時間をかけ懇切、丁寧に説明を行い理解、納得を得ていきたいと考えています。
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から何でも話せる関係の構築に努め対応しています。又スタッフに話せないことは面会者(ご家族、知人等)に話せるよう、面会時は配慮し対応しています。苦情、不満が出た場合は、法人内の第三者委員会を活用するようにしています。現在のところありません。	○	ゆっくりコミュニケーションが図れる環境をつくり、日ごろから何でも話せる関係の構築に努めていきます。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の機関紙、又は状況に合わせて電話及び口頭で報告させていただいています。昨年ご指摘いただきました金銭管理については毎月出納記録を送付し確認して頂いています。	○	利用者の状況の共有はきわめて重要と考えていますので、今後もどんな小さな情報も見逃さずに報告し共有する事で日々のサポートに活用していきたいと考えています。
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御意見箱を設置したり、法人内に第三者委員会を設け対応しています。年に数回ご家族参加の行事を計画し参加して頂き、その場が良い意見交換の場になっています。島外在住のご家族に関しては、面会時や、電話にて意見を求め運営に反映させて頂いています。	○	昨年の外部評価にて、苦情に限らず、希望、提案なども記録に残して、今後反映にしてください杜の指摘を受けていましたが、何件かあったにもかかわらず、記録に残していません。今後は残して行きたいと思います。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のミーティングやサービス向上委員会、他各種委員会、又日常的にも気軽に意見、提案ができるよう配慮し、反映しています。	○	今後も誰でも気軽に意見、提案ができる様雰囲気づくりをしていきたいと思っています。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	病院受診、入院、外出、行事等必要に応じて、柔軟に対応しています。	○	今後も必要に応じて柔軟に対応していきたいと考えています。
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	配慮し対応しています。	○	今後もそのような事態があった場合は利用者への負担が無い様充分配慮し対応していきたいと考えています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会等は全員が参加できるよう配慮し、勉強会も母体施設共同で定期的に実施しています。又グループホーム独自でも必要に応じて行っています。	○	非常勤スタッフの研修が足りないように思います。研修会参加の機会をもっと増やし資質の向上に努めて行きたいと考えています。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣町のGHより研修を受け入れ、それがきっかけとなりドライブの際に立ち寄り交流を図る機会を作ることができました。今後も関係を深め取り組んでいきたいと思っています。	○	今後も更に機会を多く作り、サービスの向上に努めて行きたいと考えています。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	忘年会、歓迎迎会等を法人合同で企画したり、月1回グループホームミーティング後にお茶を飲みながら雑談をしたりしています。		ストレスの緩和には至っていないように思いますので、今後は食事会等計画していきたいと思っています。又スタッフ間でお互いが何でも話せる雰囲気作りに取り組み、できるだけストレスをためないよう配慮していきたいと思っています。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	毎月個々に課題の設定を行い、反省、目標の達成度等の自己評価を実施する事で、各自が向上心を持って働けるようにしています。	○	1人1人の長所、短所、得意分野を生かし、意欲を持って働けるように取り組んで行きたいと思っています。
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人様からの聞き取りには困難な面があります。ご家族を通して聞き取る事が多いように思います。	○	入所前、入所時の面接では本人様から細かなことは把握できない事が多くあります。入所後に日常的にコミュニケーションを図り、信頼関係を築き、思いを受け止め、不安なく安心してお話ができるよう取り組んで行きたいと考えています。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学时、申し込み時、入居時と段階に応じて聞く機会を作り受け止め解決に向けて共に努力しています。	○	今後も同様に取り組んでいきたいと考えています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	個々の状態に応じて時間をかけ、居宅支援事業所等との連携も図りつつ、支援を見極め他サービス利用も視野に入れて対応しています。	○	今後も継続し同様のサポートを行っていきます。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	状態に応じて可能であれば、まず本人様はもちろん御家族の方も一緒に見学(下見)をして頂き、必要があれば体験入所等も考え対応しています。	○	今後も同様の対応を継続していきたいと考えています。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	出来ること、出来ないことのみきわめ、ゆったりとした環境の中で、過剰なサービスを避け、入居者のペースに合わせて出来ることはやって頂き、何時も同じ目線で対応する事で、喜怒哀楽の共有が出来、支えあう関係を築けるよう努めています。(手伝い、余暇活動を通してとても充実しています)		スタッフにより個人差があります。ミーティング等で確認し周知していきたいと思ひます。もっともっと出来ること探しに取り組んで行きたいと考えています。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	電話、面会時等に情報の共有を図り、コミュニケーションを充実する事で、信頼関係を作り、協力して頂き、支えあえる態勢づくりに努めています。家族とともに支えることがとても重要であると認識し対応しております。		面会が少なくなっていますので、電話や広報誌等で働きかけて行きたいと思ひます。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族には入所時の聞き取りや面会時に、一方入居者には日々の雑談のなかでお話を伺い状況を把握しながら、電話やお便り、面会依頼等行い個々に沿って対応しています。		時が経ち入居者の状態が落ち着いてきますと、御家族の関心が薄れてきつつありますので、面会、行事等の参加を呼びかけながら良い関係を築いていきたいと思ひます。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅訪問、買い物、お墓参り、行きつけの美容院、外食、ドライブ、行事等にでかける事で関係を維持できるよう支援しています。	○	入居者の皆様が、ご家族、地域の皆様を身近に感じて、安心して生活できるよう、今後一層関係の構築に取り組んで行きたいと考えています。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	2年目となり、入居者同志の絆も深まり、お互いがお互いを思いやる状況があちこちで見られます。理念に基づき、遠からず、近からず見守りながら、干渉し過ぎないように注意しサポートしています。多少のトラブルは見られますが、個々で解決される事が多いようです。	○	今後も入居者の皆様が助け合い、支えあって楽しく生活できるようあまり神経質にならず、目配り、気配りを忘れず支援していきたいと思ひます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院退所後はお見舞いに出かけ、死亡時には弔問に出かけるなど、スタッフ全員で関わり、その後もお会いした時には立ち話をして、思い出を語り合ったりしています。又他施設入所の場合は、非定期に面会を行い状況を確認し、お話をしています。又ご家族に関しましては、お会いした際に気軽に話をさせて頂ける関係づくりに努めています。	○	今後も退所後良い関係を継続できるよう、入所時よりコミュニケーションを大切にして、信頼関係をつくっていきたく考えています。
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、ご家族からの聞き取りをしっかりと行い、アセスメントを充実する事で思いや意向を把握し利用者本位のケアプランに反映していくよう努めています。あらたまって聞き取ってもなかなか意向をお聞きできないために、日ごろの会話の中で把握に努め対応しています。		ご家族、本人からの意向が具体的に聞き取れないのが現状ですが、日ごろの会話の中で把握に努め対応していきたく考えています。
34	これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のご家族からの聞き取り、居宅支援事業所等関係機関からの情報収集により、把握するよう努めています。	○	今後も確実な情報収集を行い把握に努めて行きたいと考えています。
35	暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の観察、日々のケア記録、モニタリングを実施してミーティングで確認しあい総合的に把握できるようにしています。		各記録を確実にし、情報交換を大切にして、情報がしっかり伝わるよう工夫し、把握に努めていきます。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族、本人、関係者の意見をお聞きし、反映して作っています。又サービス担当者会議にて介護スタッフの意見を聞き反映して作成しています。	○	今後も同様の対応を継続していきたく考えています。
37	現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じての見直しはもちろん、状況変化時も本人、ご家族の意見を伺い、スタッフ間で検討し現状に合った計画を作成しています。	○	今後も状況の変化を見逃さず、状態にあった計画の作成に努めて行きたいと思います。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々個別に記録して共有し、介護計画見直しにも反映しています。	○	今後も継続し記録、反映していききたいと思います。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出、外泊、ご家族宿泊、受診、墓参等状況に応じて多機能性を生かし、柔軟に対応しています。	○	今後も継続して柔軟に対応していきます。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議委員、民生委員、教育関係者、行政、消防署、商店街などの協力を頂きながら支援しています。	○	今後は更にネットワークを広げ、連携を図りサービスの質の向上に努めて行きたいと考えています。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他事業所のケアマネジャー、サービス事業者との交流を定期的に図り、いつでも対応できる関係をつくり、事例発生時には支援を行っています。	○	事業所間の交流は今後も継続し事例発生時にスムーズな対応ができるよう努めて行きたいと考えます。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	包括支援センター職員に運営推進会議委員として参加して頂き意見を聞いたり、必要事項発生時には相談をさせていただいています。	○	今後はもっと協働して取り組んで行けるよう努めていきたいと考えています。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前より協力医療機関をかかりつけ医とされておられた方が多く、いつでも安心して適切な医療が受けられています。主治医との面会を楽しみにしておられる入居者の方も居られます。	○	今後も医療機関、ご家族、GH連携し、適切な医療が受けられるよう取り組んで行きたいと思いを。



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関に診療内科医がおりますので必要に応じて相談、支援して頂いています。	○	協力病院で週1回心療内科、精神科の専門医の診察が受けられますので状態に応じて受診し支援していきたいと思えます。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力病院の看護師、母体施設の看護師に相談しながら健康管理に努めています。	○	今後も日常的にコミュニケーションを図り、良い関係を築き、いつでも対応、支援していただけるよう取り組んでいきます。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された時にはスタッフが交代で面会に伺い、入院生活に不安をもたれないよう配慮しています。早期退院については病院関係者及びご家族との連絡を密にして対応しています。	○	今後も継続し対応していきます。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に終末期の意向は伺っております。又早い段階から本人、ご家族、主治医、他関係機関それぞれのお話を伺い、全員で方針を共有し対応しています。	○	今後も本人ご家族の意向を第一に考えながら主治医他関係者のお話も伺い対応していきたいと思えます。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	日ごろより主治医との関係構築に努め、必要に応じて受診を行い、状態によってはスタッフの医療知識の向上などに協力をして頂いたり、対応方法を指示して頂いたりしています。	○	同事業所での看取りを参考に勉強会を行い参考にして、今後GHで出来る事、出来ない事を見極め、ご家族、関係者の意見を伺いながら、入居者にとって最良の方法を見つけていきたいと考えています。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他施設への移動の際は、ご家族、関係者で事前の話し合いを持って情報交換を行い、継続した支援ができるよう配慮しています。	○	今後も同様の支援を継続し、住み替えによるダメージを防いでいきたいと考えています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	それぞれにあった言葉掛けを行い、個々の誇り、プライバシーを損ねる事の無い様、配慮し日々のサポートを行っています。	○	今後も継続してサポートしていきます。
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個々にあった言葉掛けを行い、個々が自己決定できるよう配慮しサポートしています。自己決定が困難な場合は、状況を観察し、又ご家族の意見も聞きながら対応しています。ミーティングにてそのときそのときの状況を把握し対応しています。	○	今後も同様のサポートを行いつつ、入居者をご自分の思いで生活できるようサポートして行きたいと考えています。
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者中心である事をいつも念頭におき、個々の思いを大切に、健康状態を考慮しながら支援しています。	○	今後も個々の思いを大切にペースにあわせた支援を行っていきます。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	できるだけ更衣時は個々に沿って衣類を選べる状況を作り、御自分で選んで頂くようにしています。整髪は声をかけて行って頂いています。美容院に関しては、個々の意見を伺い、馴染みの美容院へ出かけたり、親戚の美容師さんに出張していただいたり、出張サービスを受けたり希望にあわせて行っています。	○	今後も個々の希望に沿って支援していきたいと思います。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物、調理、盛り付け、かたづけ等、個々の能力を生かしていただきながら入居者、スタッフ一緒に取り組んでいます。	○	今後もできることは参加して頂き、参加出来る事を喜びとして感じて頂けるよう支援していきたいと考えています。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個々にあわせて又状況に合わせて、飲み物が提供できるよう配慮しています。(ポカリ、麦茶、お茶、コーヒー、紅茶等)	○	希望を伺いもっと対応できるようにしていきたいと思っています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表にてパターンを把握し、時間誘導する事で、気持ちよく排泄ができるようサポートさせて頂いています。	○	今後も継続してサポートさせて頂きたいと考えています。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には健康状態を確認し、希望やタイミングにあわせてサポートさせて頂いておりますが、なかなか入浴をしたがらない方も居られ、長くなられた場合には言葉掛けを工夫し対応しています。	○	入浴嫌いの方の対応を工夫しながら、今後も継続して同様の支援をしていきたいと考えています。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の生活習慣を大切に、状況を見ながら、自室又はリビングソファにて休息されたり、休養して頂いたりして過ごさせて頂いております。	○	今後も継続して状態に応じた対応で支援していきたいと思えます。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入所時の調査で趣味、生活歴、職歴等を把握し日ごろのサポートに生かしています。例えば、農業をされておられた方には野菜作りを、歌がお好きな方にはカラオケを、裁縫の得意な方には裁縫を、家事が得意な方には家事を機会を作っては参加して頂いています。それぞれが良い気分転換となっております。	○	今後も継続してサポートしていきます。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	常時持っている事は難しい面がありますので、買い物の日を行事として計画し、個々にお財布を持っていただき買い物を楽しんでいただいています。	○	今後も財布を手にして普通にお買い物ができる喜びを感じていただけるよう支援していきたいと考えています。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に健康状態を見ながら、食材の買い物同行、散歩、ドライブ、外食、無人市場、菜園等に出かけるように支援しています。(車で10分ほどのところに畑を借りて野菜を作っています。)	○	健康状態を考慮しながら、今後も継続して支援していきたいと思えます。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご希望があれば墓参、自宅訪問、外食、お弁当持参で行楽地へのドライブなど対応しています。	○	今後は色々な行事にご家族の参加をお願いしていきたいと考えております。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでもできるよう支援しています。手紙については写真つきの年賀状、他送付物と一緒に、簡単なお手紙をしたためお出ししています。	○	手紙が書ける方にはもっと機会を作り、対応して行きたいと考えています。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間等の決まりは無く24時間いつでも面会できます。又自室の方で寛げる空間を作りゆっくり面会して頂けるようにしています。	○	今後も変わりなくサポートして行きます。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体の取り組みとして取り組んでおり、スタッフ全員が理解し拘束の無いケアに努めています。	○	今後も継続して拘束の無いケア実現に取り組んでいきます。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関は鍵はかけておらず、自由に入出入りが出来ます。居室には鍵はついていません。スタッフ全員が、鍵をかけることの弊害を理解しています。	○	今後も継続して取り組んで行きたいと考えています。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフ間の連携を図り、最善の注意を払い、安全に配慮しています。	○	今後も最善の注意を払い対応して行きたいと考えています。夜間帯に転倒等の事故が発生していますので、今後検討を重ねて行きたいと考えております。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	使ったらなおすことを心掛け、出しっ放しにしないようにしています。刃物を使用する時には誰かがそばで見守るなど考慮し、要望に応じて提供しています。	○	今後も状況を確認し安全管理に取り組んで行きたいと思えます。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	薬は入居者の手の届かないところで保管し、洗剤関係はカーテンで目隠しをして対応しています。火災訓練、行方不明捜索マニュアル、緊急時の対応マニュアル、勉強会など実施し、事故防止に取り組んでいます。	○	今後も勉強会の機会を作りスタッフの知識の向上に努めて行きたいと考えております。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	法人と協力して救命救急士の方による応急処置初期対応の勉強会を実施しています。(年2回)、又マニュアルを備え周知を図っています。	○	今後も勉強会等に参加し緊急時の対応に備えて行きたいと考えています。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署、地域公民館長さん、運営推進会議委員の皆様を通して協力をお願いしています。又年2回消防署立会いの下で、訓練を実施しております。運営推進会議委員の皆様には昨年以上の情報提供、活動をしていただきました。	○	今後なお一層、運営推進会議委員の方や地域の公民館長さんを通して協力体制を確立して行きたいと考えています。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクについては契約時にお話し説明しています。必要な方には随時連絡を取り対応しています。	○	今後も継続して同様のサポートをしていきます。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック、食事状況、排泄状況、表情等観察を行い、異常があった場合は情報を共有し、ご家族の了解を頂き、受診を行うようにしています。(緊急時はこの限りではありません)判断が出来ない状況については、母体施設の看護師に連絡し、指示を仰いで対応しています。常時協力病院との連携は図っています。	○	今後もご家族、看護師、主治医、スタッフ連携を図り対応して行きたいと考えております。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋ファイルを作り、スタッフがいつでも見れるようにしています。処方箋に変更があった場合は連絡帳にて周知を図っています。	○	理解できているスタッフ、出来ていないスタッフ居りますので、勉強会等で取り上げ全スタッフが確実に理解する様努めていきます。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	影響については研修会等で理解し、運動、水分、食事などで改善を工夫していますが、なかなか効果が見られません。薬に頼っているのが現状です。	○	今後は起床時の水分補給や散歩など充実して行きたいと考えております。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床時、毎食後声掛けを行ない、状態に合わせて支援しています。		今後も同様の支援を継続して行きます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量等チェックし把握しています。バランスについては献立表を参考にして偏りの無いようにしています。量については個々の健康状態等考慮しながら対応しています。	○	バランスのとれた食事が提供できるよう母体施設の栄養士の協力も頂き取り組んでいきたいと考えています。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成し予防に努めています。	○	個々が感染症に対する危機感をもって、知識を習得し、発生時には速やかに対応できるよう取り組んでいきます。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器、ボール類は乾燥機にて乾燥し、鍋に関しては熱消毒をしています。布巾、まな板、台拭きに関しては夜間にハイター・漂白するようにしています。食材に関しては野菜はできるだけ無人販売や菜園で収穫した新鮮な物を使っています。他食材に関しては表示を確認し新鮮なものを選ぶよう心掛けています。買い置きはできるだけしません。買い物は毎日しています。	○	今後も衛生管理には充分配慮し、食中毒の予防に努めて行きたいと思います。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	親しみやすい玄関作りになっておりいつも開放された状態になっております。玄関を入りますと直ぐに入居者の皆様のおつるぎの空間となっており皆様が笑顔で迎えてくださいます。前庭にプランターやミニ畑をつくり、お花を作ったり野菜を作ったりして、工夫をしています。	○	以前は表札、看板がなかったのですが、ご家族の協力等頂き個性的な表札、看板ができました。とても解りやすくなっています。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間はゆったりと寛ぎやすい空間となっています。季節のお花を生けることで、季節感が感じられやすさの空間となっています。音や光にも配慮しています。	○	今後も継続して安らぎの空間づくりに努めて生きたいと考えております。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	あちこちに寛げる空間があり自由に寛いでいただいております。	○	今後もっと落ち着ける空間がないか検討して行きたいと思っております。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの家具を持参していただき、居心地良く生活して頂ける環境作りをしています。	○	今後も工夫し居心地良い環境づくりに取り組んでいきたいと考えています。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	起床時には必ず窓を開け換気をするようにしています。居室は床暖房ですので暖が取れない場合がありますので、ホールの暖房を使い小まめに温度調節を行っています。又掛け物の調節も心がけています。	○	温度調節、換気は健康面の管理にとっても重要と考えますので、今後も十分配慮して行きたいと考えます。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール、トイレ、浴室など手摺りが無く、又あっても実用的でないものもありとても危険であり、自立可能な方も自立できない現状が見られています。現在交渉中ですので近いうちに整備できると思います。	○	早急に改善に取り組み、自立支援可能な環境作りに取り組んでいきます。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室には目印をしてトイレには表札をつけ混乱の無い様工夫しています。個々に応じて対応し個々がわかる力を十分発揮できるよう配慮しサポートしています。	○	今後も個々が混乱の無い様配慮しサポートして行きたいと思います。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に机を置いて天気の良い日は食事を摂ったり、お話をしたりして楽しく過ごしています。又釜を利用して焼き芋をしたり、魚を焼いたりして楽しんでいます。庭が広い為に散策したり、夏にはバーベキューをしたり色々活用しています。	○	今後も寛ぎの空間として活用して行きたいと考えています。

. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない



鹿児島県 グループホームはまんだ

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	数日に1回程度
		<input type="radio"/>	たまに
		<input type="radio"/>	ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	大いに増えている
		<input type="radio"/>	少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	あまり増えていない
		<input type="radio"/>	全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ゆったりとした環境の中で入居者の皆様が望んでおられる生活を支援しながら、ホームの一員としてできることを探して頂き、少しの可能性の中から何かを見出し、新たな喜びを感じて頂けるよう無理なくサポートしています。行事参加、ドライブ、野菜づくり、外食、買い物など入居者の皆様に地域の中で開放的な生活を支援する事でとても良い気分転換ができています。入居者の方から「今日は天気よかる、どけーもいかんと」等と催促も聞かれます。又誕生日会には大正琴同好会や、踊りの会(さくら会)等地域の方々に慰問に来ていただき交流を図りながら楽しんでいただいています。